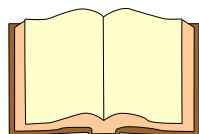


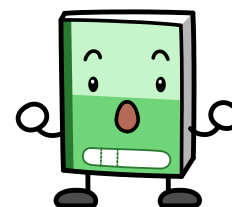


らびらびら



December

本の紹介



読んでみよう!

第58回青少年読書感想文コンクール結果発表

今年度第58回青少年読書感想文コンクールには、県内38校より計11,010編の作品が寄せられた。入賞者が発表になった。北高からは2人が入賞しました。

【自由読書部門】

優良賞 1年 景山真帆子



【課題読書部門】

優秀賞 2年 西田 瑛美 (県第2位)

松江北高は3年連続で県1位の最優秀賞を受賞していたが、西田さんは惜しくも2位で全国出品を逃した。

第32回全国高校生読書体験記コンクール結果発表

一ツ橋文芸教育振興会主催の同コンクールの結果が発表された。大切にしている本を取り上げ、自分の考え方や生き方にどんな影響を与えたかがテーマで、県内より4,114人が応募した。優良賞、入選、佳作の計10編が県で選出された。松江北高はそのうちの3編が入賞した。

●入選 1年 添野沙羅

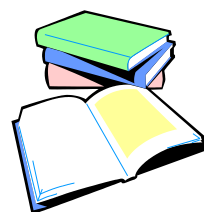
●佳作 3年 川本桃子

2年 田野恵美

午堂登紀雄『日本脱出～この国はあなたの資産を守ってくれない』あさ出版

18R 岩本真一郎

「社長、わが社は大丈夫ですか？」と社員に聞かれ、倒産すると答える社長はいない。国家も同様である。インフレ・増税・給与や雇用減など現在の日本を襲う問題に対して果たしてどれくらい私たちは向き合っているだろうか？「真実はコトが起こってから、初めて明かされるものである」本当の危機を常に考え、想定内にした者が最後は生き残る。この本は経済という面にスポットライトを当て危機について語る。●●●●●



藤田 遼『桜ノ雨』

21R 福田美咲

この本は「桜ノ雨」という1つの歌をもとにして作られたものです。歌としての桜ノ雨は卒業ソングです。その温かい歌詞を小説にしたこの本には友情・恋愛など、とても共感できるものがたくさんあります。高校生にこそ読んで欲しい一冊なので、ぜひ手に取ってみてください。●●●●●

金盛浦子『男の子を追いつめるお母さんの口ぐせ』(静山社文庫)

23R 安達 歩

僕がこの本を選んだのには理由があります。それは、この頃母に色々何かを言われているからです。その言動によって勉強のやる気をなくしたりしています。そんな時にこの本は僕の心の置き場所となってくれました。読んでみると、「ああ、たしかにこんなこと言われてああなっているなあ」と思う所がいくつもありました。最後に、男の子だけではなく女の子にも言えることもあるので、これを読んで苦しいことに立ち向かっていきましょう。●●●●●

遠藤武文『プリズン・トリック』(講談社)

23R 伊藤 将

僕がこの本を選んだ理由は本の表紙に「あなたは絶対にこの謎を解けない。そして必ず二度読む」と書いてあったからです。実際に読んでみると、場面がかわっていくごとに自分が思っていることの裏をかかれたりして、やはり最後も読者が思いもつかぬことを書かれて、分からなくなり不思議に思い、表紙にも書いてあったとおり二度読んでしまいました。あまり僕もこういった種類の本は読まないのですが、この本だけは十分に楽しめました。●●●●●

鎌田 洋『ディズニー そうじの神様が教えてくれたこと』(ソフトバンク)

14R 西谷 萌

ディズニーランドはどうしていつも綺麗なのか？それは、開園時間はもちろん、閉園後の夜中にも園内を掃除するキャスト(従業員)がいるからです。ただ、彼らの仕事は単なる清掃活動ではなく、ゲスト(お客様)に夢を与えるというものです。掃除と夢とがどのようなつながりを持つのか。それは本を開いて確かめてみてください。東京ディズニーランドで実際にキャストを経験された鎌田さんの言葉で綴られています。

飛鳥井千砂『タイニー・タイニー・ハッピー』(角川書店)

11R 高野耶也子

東京郊外の大型ショッピングセンター「タイニー・タイニーハッピー」略して「タニハピ」。英文法的にはおかしいが、小さな小さな幸せ、という意味である。本書は「タニハピ」を舞台に、結婚や恋愛、または仕事などに悩む男女8人を描いた恋愛ストーリー。小さなことでズレが生じてきたり、悩んだり…けれど、小さな幸せで心が優しくなる。1話1話を読み終えるごとに、心がきつとあたたかくなる、リアルな恋愛の連作集です。●●●●●

12月25日は「図書館クリスマスの集い」開催!

五味洋治『父・金正日と私～金正男独占告白へ』（文藝春秋）

28R 増本 寛

この本を読むと、情報がほぼ完全に封鎖されている北朝鮮がどうなっているのかが分かる。金正日がどのような思いで、三代世襲をして正恩に引き継がせたのか、金正日がどのような生活をしていて、母国のことをどう思っているか、などがとても明確に分かるのである。●●●●●●

上原愛加『100%奇跡がおこる～乙女の魔法のつかいかたすべては絶対うまい！』（学研）

21R 高木あゆみ

この本は自己啓発本のような内容のものなのですが、表紙からも分かるように、大変可愛らしく気楽に読める本です。そしてこの本を持っているだけでもいいことが起こります。これは魔法の本なんです。だれであっても、疲れたり、落ち込んだりすることがあると思います。そういう時にこの本を数ページ読んでみてください。今までと同じ世界のはずなのに、急にキラキラと見えます。今まで北高にはなかったような本なので、特に女子のみなさんは読んでみて下さい。●●●●●●

川上未映子『ヘヴン』

25R 尾崎 優

いじめられている男女2人の中学生の物語。当たり前だけど意外と難しい「善」と「悪」といったことについて考えて見るキッカケになるのではないのでしょうか。いじめ自殺がニュースで大きく取り上げられている今だからこそ、考えさせる一冊です。●●●●●●

水木しげる『水木しげるの古代出雲』（角川）

24R 荒川秦愛

山陰人なら言わずと知れた水木先生による、古代出雲の歴史語り。神話と史実を元にして「古代出雲」の栄枯盛衰をひもときます。荒神谷遺跡で発掘された数多くの銅剣らは一体何のため？ヤマタノオロチ退治のころの出雲は？くにゆずりの神話のウラにある、古代出雲王朝の解体に至るまで…。折しも今年には神々の国出雲という大型イベントがあります。もはや出雲人も知ることでできない古代出雲の世界を、のぞき見てみませんか？●●●●●●

化野 燐『葬神記』（角川）

24R 橋本沙希

「君には思考力がないのだな」古屋達司は初めて会った「考古探偵」に第一声そう言われる。アルバイト先で古屋は死体を発見してしまい警察に連行される。考古探偵によって事件は解決するかに見えたのだが、まだ終わらなかったのだ。この本には考古学の知識が満載です。謎解きを楽しみつつ、歴史の知識も少し増えます。古代とつながるミステリー。読んでみませんか？

綿引 弘『マンガ世界の歴史が分かる本』（三笠書房）

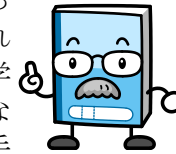
17R 青山雄亮

この本は、絵が付いているので、教科書よりも世界史の流れがつかみやすいです。というわけで、2・3年に特にオススメです。一年生も世界史の予習的な感じでオススメです。

古田 満『戦艦大和』（角川）

11R 石川大悟

日本人ならだれもが一度は「戦艦大和」という言葉を聞いたことがあるだろう。大日本帝国艦隊が世界に誇った巨大艦である。この本はその大和に実際に乗り、沈没に至るまでを体験してこられた方の書いた本だ。大和に乗った人たちが何を思い、どんな生き方をし、そして大和がどんな運命をたどったのか、明確に記されている。過去から学び、過ちを繰り返さないためにもぜひ一度手に取ってほしい。●●●●●●



重松 清『みぞれ』（角川）

27R 青山知史

ノストラダムスの予言はずれたが、オレの予言は当たっちゃった。やっぱりカスミはまだ薬を持っている。「ゲームなの」薬の瓶の中には三百個以上のカプセル…。その大半は胃薬だが…。今日、多くの自殺についてのニュースが報じられている。「生きる理由って何？」こんなことを思ったこともあると思う。そんなことを考えて、この本を読んでもらいたい。●●●●●●

生田 哲『がんとDNAのひみつ』（サイエンスアイ新書）

17R 足立 隆

がんは日本人の2人に1人がかかり、3人に1人は亡くなるという病気だが、治療法が確立されていない病気だ。この本は、がんの発生遺伝子とは何か、などが書かれている。この本を読んで初めて遺伝子とDNAの違いが分かったり、がんから身体を守る抑制遺伝子、放射線がDNAに与えるダメージなど、新しい発見がありとてもおもしろかった。

学園祭バザー=売り上げ寄付

9月にPTA研修部のみなさんがバザーをやって下さって、その売上の全額を、生徒のみなさんの図書購入に充ててください、と図書館にご寄付頂きました。どうもありがとうございます。

¥106,580をご寄付いただきました

北高図書館は、県下で最も図書購入費の恵まれた学校です。本を読むことが、単に知的世界を広げ学力の増進につながるだけでなく、自分の知らない世界を疑似体験出来るのも大きな魅力です。このお金でまた新しい本をたくさん入れることが出来ます。有り難いことです。心よりお礼申し上げます。生徒のみなさん、図書館の本を大いに利用して下さい！



冬休みは閉館します！

■12月26日～1月7日までは、図書館の照明工事と蔵書整理のために閉館します。図書館内の照明が暗く、音がしていましたが、このたび工事して改善していただくことになりました。本の貸し出しは12月25日終業式の日が最後になります。1人5冊まで借りることができますので、ぜひ足を運んで下さい。▲▲▲▲▲

加藤シゲアキ『ピンクとブルー』（角川書店）

13R 川谷 愛

「そして僕はやるしかない。やらないなんてないから」ステージという世界の魔法、幻想に魅入られた幼なじみの二人の青年の愛と孤独を描く。ふとしたことで芸能界へ足を踏み入れた二人の青年が、「芸能界」という、一見華やかな世界でどのように生きるのか。そして二人にはどんな結末が待っているのか。最後の最後まで結末は見えません。最後に見えた結果はとても深く、心に響くものがあります。是非、読んでみてください。●●●●●●

重松 清『ポニーテール』（新潮社）

13R 青山 栞

「ケンカの数だけ、きっと仲直りできる」両親の再婚により新米の兄弟となったマキとフミ。マキは人と関わるのが苦手でフミや父と上手く関わる事ができず、フミとはすれ違うことが多かった。だが時間が経っていくうちに距離は近づいていく。

新しく家族となりバラバラだった4人がたくさんの苦勞を乗り越えて成長していく過程に感動しました。興味のある人は是非読んでみて下さい。●●●●●●